

卓 話

平成 23 年 4 月 5 日

『私 の 故 郷』

岐阜中ロータリークラブ 小林和也 会員

私の故郷、朝日村（現在 高山市）の飛騨言葉（弁）について、中ロータリーの皆様には、あまりなじみのない言葉を紹介致しました。

旧朝日村は 1950 年頃前後から暫くは、旧朝日村の長野県境付近でダム建設が行われていて、その建設工事に従事する作業員さん達の憩い施設として片田舎にはふさわしくない、「朝日座」という映画館があったり、旧久々野町に近い場所には飲み屋街があったり、また、従事する作業員の人の多くが朝鮮人の方多かったせいか、鶏チャンの店があったりしました。【長野県大町市（黒部ダム作業地）と、規模は違うものの似たところがあると、大町市を仕事で行った時に感じました。】



また、こぼれ話としては、当時、旧朝日村青谷付近に撤去されてしまった橋の入り口の門だけがそのまま残されていて（現在はその橋はありません。）、その橋を渡れるものと勘違いして、車を運転する人が川底に車ごと転落する事故が多々ありました。

現在なら大きな問題になるようなことが普通にあった記憶があります。

わかるようでわからない言葉、飛騨ではよく使う「こわい」には、恥ずかしいとか、申し訳ない、感謝の気持ち、気の毒、心配など、とりわけ女性言葉として様々な場面場面で出てくることを紹介させていただきました。

なかでも、「あかぺら」は音楽のアカペラではなく、「ヤモリ」のことであったり、まるでドイツ語みたいなイントネーションの「げばいた」は「失敗」の意味。

朝日村には、美女峠、美女ヶ池、鈴蘭の花、そこから見える乗鞍の美しさは、あまり観光案内にはない、まさに絶景の美しさです。

高山観光の一つに、是非、ちょっと足を伸ばして、ほんのついでに・・・。

何もない所ですが、何もないから、まさに昔の日本情緒がある所です。

各家々には、今でも直接山から引っ張った水で生活し、たいていの家の前には山水の用水が。言葉と景色と空間を。機会がありましら、是非、是非、どうぞ。